

第2学年道徳学習指導案

令和5年 月 日()

授業提案者 月野 江理香

- 1 主題名 してはいけないこと(資料名「わりこみ」日本文教出版)
- 2 ねらい 自分勝手な行動はいけないことだということを知り、誰もが気持ち良く生活できるように正しい判断をしようとする実践意欲と態度を育てる。

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

本主題は、内容項目A-1「よいことと悪いことの区別をし、よいと思うことを進んで行うこと」をねらいとしている。

人が健全な社会生活を営むためには、物事の善悪についての確に判断し、自ら正しいと信じることに従って主体的に行動することが大切である。しかし、判断を誤ったり、判断しても行動に移せなかったりすることもある。そのため、幼い時期から、人として行って良いことと行ってはいけないことをしっかり判断する力を身に付けさせるとともに、良いと思うことを自信をもって行おうとする態度を養っていく必要がある。

この期の児童は、善悪の判断について自分の都合で考える傾向がある。また、正しいことだと判断しても、自分の考えに自信がもてなかったり、周囲に遠慮したりして主体的に行動に移せないこともしばしばある。そこで、このような内容を学習することは、正しく善悪の判断をすることの大切さに気付き、良いと思ったことを遠慮なく行動に移そうとする道徳的判断力や態度を育成する上で大変意義深いと考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、明るく活発に学習や活動に取り組んでいる。友達の言動によく注目していて、廊下を走ったり、無言の場が守れなかったりしていた子の報告を教師にすることがしばしばある。その一方で、自分自身の行動の判断については、後先考えず、自分の都合を優先している様子も見受けられる。また、自分の判断に自信がもてず、いけないことをしている子に遠慮して注意できない児童もいる。これは、してはいけないことをするとどうなるのか深く考えが及んでいなかったり、良いと思うことを進んで行動に移すことの清々しさに十分気付いていなかったりすることが原因であると考えられる。

道徳の時間においては、挿絵を示したり、資料の内容を整理したりする中で、問題となる場面を具体的にイメージし、自分の思いや考えをもつことができるようになってきている。また、友達が発表した意見をノートにメモする児童もいる。しかし、資料を通して考えたことと実生活を結び付けて自分の行動を見つめ直したり、考えたことを積極的に発表したりすることについては今後の指導によるところが大きい。

(3) 資料について

そこで、自分勝手な行動はいけないことだということを知り、誰もが気持ち良く生活できるように正しい判断をしようとする意欲と態度を育てるために、読み物資料「わりこみ」(日本文教出版)を取り上げる。本資料は、人気のある遊具である滑り台の順番待ちをしているときに、初めは自分の前に割り込みをされて激しく憤る主人公「ぼく」が、自分のすぐ後ろに並ぶのは「構わないかな。」と思うものの、ずっと並んでいた他の人の反応を見て、悪いことは悪いと思い直し、はっきりと注意をするという内容である。割り込みがいけないことというのは認識していても、自分が損をしなければ別に良いと判断してしまう主人公の弱さに共感させた上で、注意をした後の清々しさに気付かせることで、人として行って良いことや悪いことの区別をし、進んで行動していこうとする思いが深まるようにする。

(4) 指導について

導入の段階においては、友達に注意するか迷った経験について事前にアンケートをとり、その結果を提示することで児童が学級の現状を把握しながら考えられるようにする。その際に、当時の気持ちを考えさせたり、理由を問うたりして、ねらいとする価値への焦点化を図る。

展開の段階では、資料の場面絵と映像を見せることで、児童が割り込みの状況を把握したうえで問題場面について考えられるようにする。自分の後ろに移動した場面については、教師がいさむ役となって役割演技をすることで、主人公の「後ろなら構わないかな。」という気持ちを共感的に捉えさせ、考えたことをワークシートに書かせることで、自分優位な考えで判断していることに気付けるようにする。また、役割演技を見ている児童にどう思うか尋ねることで、「ぼく」の問題点について考えられるようにする。

終末の段階では、本時の学習を振り返らせ、考えたことを発表させることで、良いことと悪いことを判断することの大切さに改めて気づき、良いと思うことを行動に移そうという思いを高められるようにする

4 事前・事後指導

事前指導	○ 児童が友達に注意するなど、進んで良いと思うことをしている事例について、朝の会や帰りの会等で話題にし、ねらいに関わる態度を大切にする。
事後指導	○ 本時の学習の板書と、児童が発言した内容をまとめて学級に掲示したり、学級通信で児童の思いを紹介したりすることで、道徳的実践に繋げることができるようにする。

5 学習指導過程

学習活動及び学習内容	指導上の留意点	資料・準備
1 善悪の判断について話し合う。 ○ 友達に注意できるか ○ その理由 ○ 本時のテーマ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">友だちにちゅういできなくてもいいのかな？</div>	○ 事前アンケートの集計結果を提示することで、児童が学級の現状を把握しながら考えられるようにする。 ○ 注意するかしないかの判断理由を問うことで、本時のねらいを焦点化する。	タブレット TVモニター
2 資料「わりこみ」を読んで、話し合う。 ○ 自分の前にいさむさんが割り込みをしてきた時の気持ち ○ いさむさんが自分の後ろに移動したときの気持ち ○ 「ぼく」の行動について	○ 場面絵に合わせて、資料の映像を見せることで、児童が状況を正しく理解して考えられるようにする。 ○ 教師がいさむ役になり、役割演技をすることで、児童が「ぼく」の立場になって考えられるようにする。 ○ 役割演技を見ている児童にどう思ったか問うことで、児童が「ぼく」の自分勝手な判断の問題点に気付けるようにする。	場面絵 わりこみの映像 ワークシート


<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>○ 今日の学習で考えたこと</p>	<p>○ 導入で提示したアンケートを再度提示することで、児童が自身の経験も振り返りながら考えられるようにする。</p>	<p>タブレット TV モニター ワークシート</p>
---	---	-------------------------------------

6 本時の評価規準

主人公の心情の変化を考えたり、これまでの自分の経験を振り返ったりすることをもとに、誰もが気持ちよく生活するための判断の大切さに気づき、良いと思うことを自信をもって行おうとする思いを高めている。 【発言・ワークシート】

7 板書計画

8 資料分析

内容構成及び主人公の心情	発問	予想される子どもの反応
<p>○ 大きな滑り台に並び、順番を待つ</p> <p>楽しみだな。早く順番が来ないかな。</p> <p>・ いさむが前に割り込みをしてくる</p> <p>どうして割り込んでくるの。僕が先なのに…</p>  <p>・ いさむが後ろに移動する</p> <p>後ろなら構わないかな。</p>	<p>・ このとき、ぼくはどう思ったでしょう。</p> <p>・ いさむさんが後ろに移動したら、僕はどう思うでしょう。</p>	<p>・ あとからきたのに、ずるい!</p> <p>・ ぼくがすべるのがおそくなってしまう。</p> <p>・ ぼくが先だったのに…。</p> <p>・ これでぼくはすべられる。</p> <p>・ じゅんばんはかわらない。</p> <p>・ べつにいいかな。</p>

○ いさむに注意をする



• 並んでいた他の人はどう思うでしょう。

• 「やっぱり、割り込みはいけないよ。」といさむさんに注意したときの僕は、どんな気持ちだったのでしょうか。

• やっぱり、ずるい。
• ずっと並んでいるのに。
• どうしてそんなことをするのだろう。ひどい。

• やっぱり いけない！
• ほかの人はずっとならんでいた。
• みんなのために、いさむに言わなくちゃ。

■ 「やっぱり、わりこみはいけないよ。」と
いさむさんに言ったときのぼくは、どんな
きもちだったのでしょうか。



■ きょう今日の学習がくしゅうで考えたことかんが

きょうかしょ教科書「80〜83ページ」

がくしゅうした日

月

日